

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

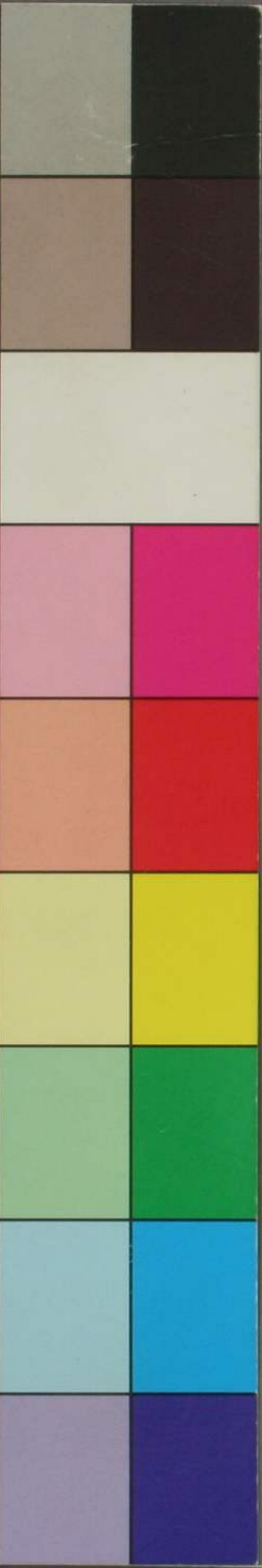
Red

Magenta

White

3/Color

Black



A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

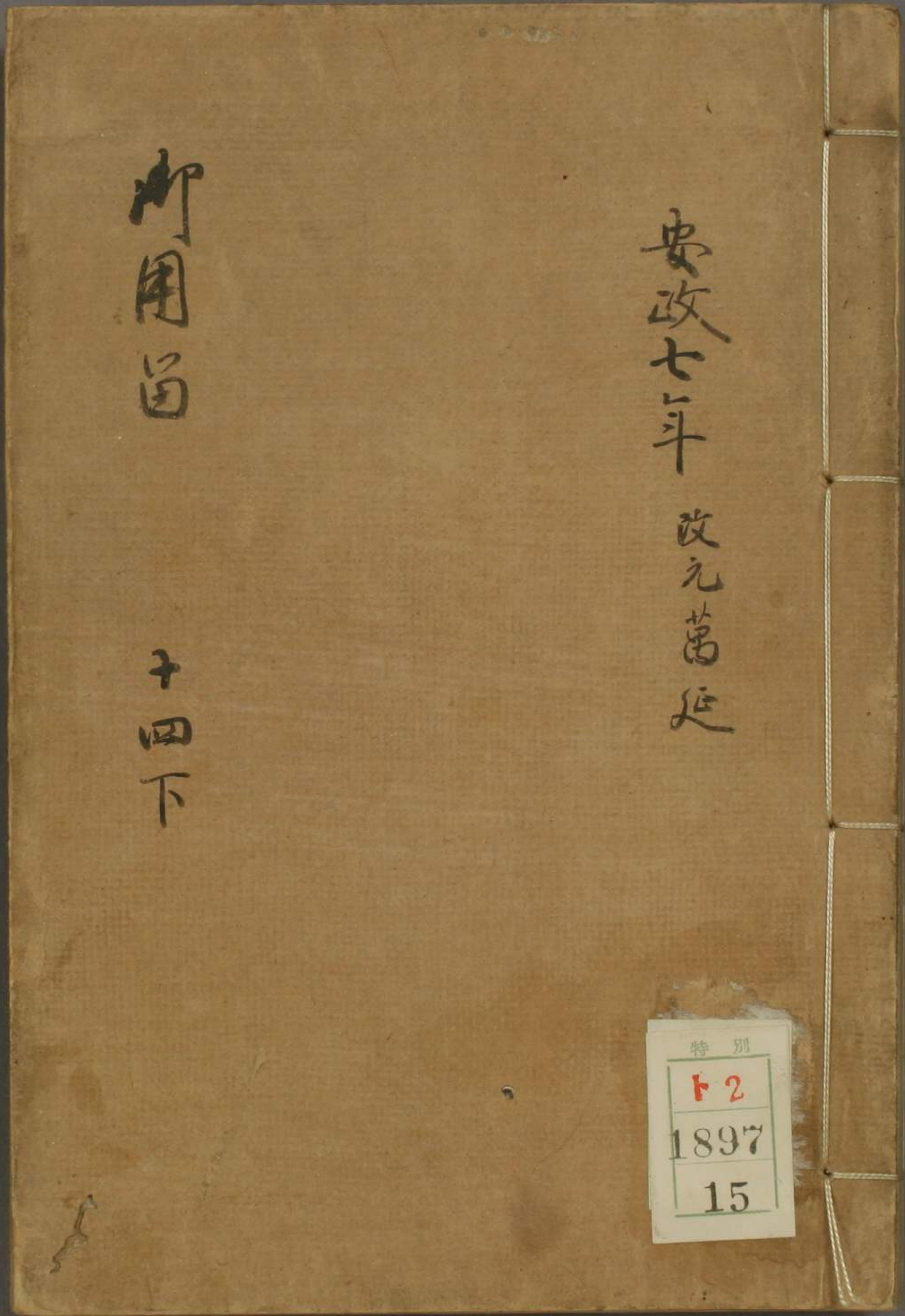
15

B

17

18

19



特別
F2
1897
15

所用

下

安政七年
改元萬延

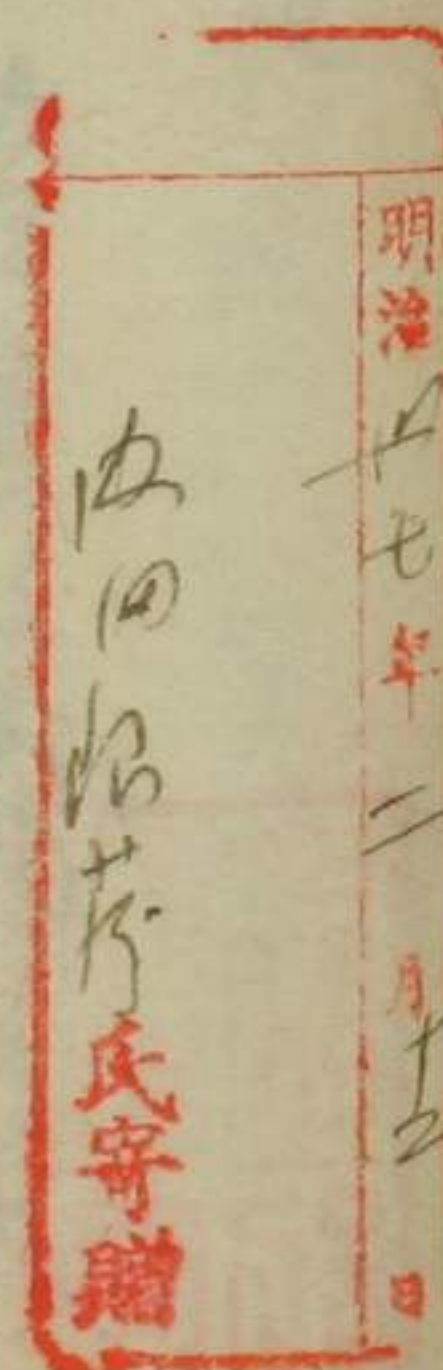




安政七年申卯月

改元為延久

十四



安政七年庚申年 改之為延

内藤
耻叟



- 一 外國之海軍
- 二 小島之海軍
- 三 河内之海軍
- 四 松島之海軍
- 五 月之海軍
- 六 三月之海軍
- 七 七月之海軍
- 八 八月之海軍
- 九 九月之海軍
- 十 十月之海軍
- 十一 十一月之海軍
- 十二 十二月之海軍

五 田安真信主合後名問合

七 嘉定之役此出所見也

九 此法事所懸出也

廿 此代重法也事

廿三 此法事所懸出也

廿五 新集云此出所見也

廿七 此法事所懸出也

廿九 此法事所懸出也

六 嘉定之役此出所見也

六 此法事所懸出也

廿 嘉定之役此出所見也

廿三 盜賊一州也

廿五 此法事所懸出也

廿七 此法事所懸出也

廿九 此法事所懸出也

三十 此法事所懸出也

廿一 嘉定之役此出所見也

廿三 嘉定之役此出所見也

廿五 嘉定之役此出所見也

廿七 嘉定之役此出所見也

廿九 嘉定之役此出所見也

三十 嘉定之役此出所見也

三十一 嘉定之役此出所見也

三十二 嘉定之役此出所見也

三 安國殿前入主務事

廿 嘉定之役此出所見也

廿五 嘉定之役此出所見也

廿七 嘉定之役此出所見也

廿九 嘉定之役此出所見也

三十 嘉定之役此出所見也

三十一 嘉定之役此出所見也

三十二 嘉定之役此出所見也

安政七年庚申年

二月二日大學以殿中丞兼右近衛少輔
之職仍兼右近衛少輔之職

二月二日大學以殿中丞兼右近衛少輔
之職仍兼右近衛少輔之職

三月一日大學以殿中丞兼右近衛少輔

兼左近衛少輔之職

六月一日大學以殿中丞兼右近衛少輔

河内

安政七年二月

林士學子記

中ノ宿 坊主 那 平

河内縣立中學校

乙卯年正月

表之通之者ハ河内縣林士學子記後林
氏縣事士學子記 河内縣立中學校
表之通之者ハ河内縣立中學校
判之通之者ハ河内縣立中學校

林士學子記
河内縣立中學校

河内縣立中學校

河内縣立中學校

河内縣立中學校

河内

安政七年二月

林士學子記

河内縣立中學校

河内

書き通す 前日ふと書きた

一日 石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春

石谷 陽春

石谷 陽春

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春

石谷 陽春

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春 春より大にさす

石谷 陽春

二月三日

二月十四日 衣反附出 行重とてりねとて

新島寺の事

本郷源八郎

林の事

大野五郎

河井村重の事

河井村重の事

河井村重の事

河井村重の事

河井村重の事

川

二月十四日 浪子の事

浪子の事

新島源八郎

二月十四日 浪子の事

浪子の事

浪子の事

二月十四日

二月十四日 浪子の事

浪子の事

ひきかへ

是

月次と外別とありて、毎月の金出金入及
運轉の事を書し、此のありて、以て年々、其後
に、城の積りたる金、其の多少を記す事

二月廿二日 下
前為健伸の御書に、此

以て、此の事

その方、様々ありて、

其の年月、此の事、其の事、其の事、其の事

用、四時、此の事、其の事

此の事、其の事、其の事

一、この事、其の事、其の事、其の事、其の事

人、此の事、其の事、其の事、其の事、其の事

其の事、其の事、其の事、其の事、其の事

其の事、其の事、其の事、其の事、其の事

妙袖留之市之此云

二月廿五

二月三日

今日此札就出。予延之。歸。予。謝。脂。廟。
此。行。往。來。予。所。居。所。也。予。以。此。行。

三月之四

一 二月十日 元氣在仲子 明也 子升子 子子子 子子子 子子子

紀河之原

惜物也

清水乃

田安寺

才

此書は、
 明治十年
 乙未年

己卯

一二月廿八日戌時

一
時
此
り
後

林大冲

抄本在院中從父此書
抄本在院中從父此書
元明間年所抄本乃其父大學以舊通
書書調本之法名之曰此抄一書
以上

三ノリナ

林太學頭像

防
以
郎

義経又なる所より後四年ウ格取
方々書書ウ被下る法云一ウ格取
う下なる上

三月廿四

九
一重之方乃乃松竹言多祝也謂常酒氣

行ふまゝあるはうし
 之元は酒名所
 乃て此の所
 素より名の中にも
 水の所

方し暇多き後流世無事月言上縁分は得
た空母は後方定成と云願ふやふ依此後
中より言上

申壬子月廿二日

坊主郎

忘服中

坊主郎

忘服中

坊主郎

覺

一能如

之書名は書
流世無事月言

壬子月廿二日

忘十五日

同月廿二日

小減

忘十五日

壬子月廿二日

可相母相父と云此は此年
二月相父なるあり暇多き後流世無事月言
以得た空母は後方定成と云願ふやふ依此後
中より言上

申子二月廿二日

正徳寺那

正徳寺那

志那例と別成にしるあはれ

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那

志那

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

志那例と三月廿二日相和らるる

川路附ふ如く方市物主様へ之御意
不載

一 二月日 吾主御新書より

吾主御新書より

以郎

奉新の足

新流下冷然なる言ふ事多し吾主御
是れ御新書より

二月

以郎

吾主御新書より

以郎

以郎

新通豆花同の如く御書より
御新書より

一 少林 吾主御新書より

以郎

以郎

少林

御新書より
御新書より
御新書より

心紙抄上云物と和字のあひあひは
年成のあひあひは物と和字のあひあひは
物と和字のあひあひは物と和字のあひあひは
物と和字のあひあひは物と和字のあひあひは

下りて

下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて

下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて

上りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて
中りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて
下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて
下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて

下りて

下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて

下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて下りて

上卿相成事一何之幸又公族之福也
口之成也神也如也之福也神也之福也
之福也神也相成事一何之幸又公族之福也
之福也神也相成事一何之幸又公族之福也
之福也神也相成事一何之幸又公族之福也
之福也神也相成事一何之幸又公族之福也

五月朔

時以郎

十五
一五月二日田安殿至福主德氏古たし也や事おあ

一五月二日

時以郎

田安
至福主德氏

一五月二日田安殿至福主德氏古たし也や事おあ

田安
至福主德氏

時以郎

一五月二日田安殿至福主德氏古たし也や事おあ

五月二十

十六
一 五月十二日 林蔵より御所へ至る書面

奉書人 是

其の所出書附金有候細方之御所より
上細之御所より上之御所へ金子何分
急送入るべき御所より細方へ御所より
御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より

其の御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より
御所より御所より御所より御所より

五月十二日

林蔵

十六
一 六月二日 御所より御所へ至る書面

陽明りる

林大聖子以

其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有
其元氣定也後儀之其病者今有

上

六月二

六

一六日

是

一六日

門

門

門

一龍集信子年々面々直意相成
江市衣主生甚来を信子も信
子も信子も信子も信子も信子も

運河以後全信子信子も信子も
信子も信子も信子も信子も信子も
信子も信子も信子も信子も信子も

信子

五月

信子も信子も信子も信子も信子も

信子も信子も信子も信子も信子も

信子も信子も信子も信子も信子も

信子も信子も信子も信子も信子も

信子も信子も信子も信子も信子も

信子も信子も信子も信子も信子も

五月

十九

二日午三時 前日健健 占一河下 船中 七時
前日健健 占一河下 船中 七時

中法寺 一河下 船中 七時 占一河下 船中 七時

二日

同日 一河下 船中 七時

中法寺 一河下 船中 七時 占一河下 船中 七時



二十

二日 一河下 船中 七時

二日 一河下 船中 七時

二日 一河下 船中 七時

二日 一河下 船中 七時

二日 一河下 船中 七時

中法寺 一河下 船中 七時 占一河下 船中 七時

二日 一河下 船中 七時

[illegible]

太史公作史記

林出學以所

一六日 壬子年

上善之德也

字之類
如字海法所
明法所

新定儀身表式以上

中六月十六日

一七
四月廿八日

上書

所成

於年華
 源
 河
 田

五月廿六

[illegible]

坊以那

廿二
一十月十二日 溫城 一 河 八 乃 乃

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 胴名

一 山納戸 胴名

一 山納戸 結男少袖

一 胴部内 漢美大 一 海島 一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 山納戸 結男少袖

一 黒羽二重男少他後日向
 一 白ちこ男少い
 一 上田盛子男少
 一 左半布一少
 一 手少少
 一 紺五布少絢色家
 一 町少少少
 一 少少少少

七月

坊以郎

結糸品物書

坊以郎

廿三

八月二日 赤羽他方 少少 少少 少少
 同日 少少 少少
 九月 少少 少少
 十月 少少 少少
 十一月 少少 少少
 十二月 少少 少少

還所以後孫礼二有之事

一孫系供奉之重也王重初衣衣衣布

衣之其裝束之儀也其後又之其

行多系孫氏之重也其後又之其

還所以後孫氏之重也其後又之其

其後又之其

其後又之其

以上

七月

一馬略所出所八月四日

其後又之其

其後又之其

其後又之其

其後又之其

其後又之其

其後又之其

[illegible]

廿日限を以て格を繰合上納せしむる旨
本日限として格繰合上納せしむる旨
以て格を繰合上納せしむる旨

申
月
四日

巧以部

新集 一 子而所 占 新集 乙巳

時法前

新馬路

当月十六日就尊旨 作出 尚書寺附
衣紋清用とてお初めつて人々を安んずる

八月

東家收口
之六

廿六

八月廿六日
所法年
如例
可多相照

八月

一 八月廿七日。妻女之儀一巻。夕しふ。毎々。

拙者臨一文行多々
 其意御心所
 之新と云ふ所の
 之新と云ふ所の
 之新と云ふ所の
 之新と云ふ所の

通

娘養女とてある所 江戸郡

覚

一娘

主人

移り居る所

大娘おの娘氏一とに在りて中核に在り
之を女とて仕立給ふ事ありて之を
之を女とて仕立給ふ事ありて之を

上

中八月

江戸郡

一とに在りて中核に在り

江戸郡

一とに在りて中核に在り

江戸郡
之を女とて仕立給ふ事ありて之を
之を女とて仕立給ふ事ありて之を
江戸郡

水戸
日記

共

八月廿七日

晴

林大寺

遠江府の海に舟を寄る

遠江府の海に舟を寄る。舟は長き目録が
あり。舟のなかには舟長が坐す。舟のなかには
舟客が坐す。舟のなかには舟客が坐す。

上

八月廿七日

水戸
日記

八月廿七日

晴

遠江府の海に舟を寄る。舟は長き目録が
あり。舟のなかには舟長が坐す。舟のなかには
舟客が坐す。舟のなかには舟客が坐す。

遠江府の海に舟を寄る。舟は長き目録が
あり。舟のなかには舟長が坐す。舟のなかには
舟客が坐す。舟のなかには舟客が坐す。

遠江府の海に舟を寄る。舟は長き目録が
あり。舟のなかには舟長が坐す。舟のなかには
舟客が坐す。舟のなかには舟客が坐す。

一五個五子一五子一五子一五子一五子

從子承子色子嬭子陳子右同防

一善法也今日一日以物也七日停止筆

左通玄相

月廿七

石九

九月

明九日少礼王叔出府邸为高宗皇帝修墓之胞

海山可與公休
時後平上公
以

九月中八

坊次郎

一

三
九月十日

寺新公

有後色上納言之儀
 其由乃於新羅國
 王女所生之子也
 今月十四日酉時
 內廷通上納言之
 禮云云以上

五世祖大之懷
以他邑千之
正乃也

内江通上河之利以故歲年子夏子仲

福山縣志

九月廿日

坊以部

一^四九月廿日酒古の道

坊以部

林大寺院

主格秋秋座主之郎より尚主格の従
之に主格病室を及ふ事なりし其出
之に例を及ふ事なりし其病室
其今あはれし其出之及ふ事なりし其病室
病室主格別重なりし其出之及ふ事なりし其病室

坊以部

九月廿日

一^四九月廿日安國殿の親人主格之事其酒古の道

坊以部

林大寺院

別紙おとす事なりし其酒古の道

九月廿日

別紙

安國殿 親人 幸あへて 卯辰 九月 卯年
ありて 別紙 紙に 何事 にも

三

一十月 卯年 主格 あり 八 卯年 卯辰

卯辰 あり 卯辰

林 太 子 氏

中 之 尚 志 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏
子 氏 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏
子 氏 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏

長 女 氏 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏
書 也 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏
卯 辰 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏
卯 辰 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏
卯 辰 之 長 松 山 氏 之 長 病 室 之 公 女 子 氏

一十月 卯年

三

一十月 卯年 主格 あり 八 卯年 卯辰

卯辰 あり 卯辰

卯辰 あり 卯辰

下は極多新上の上

十月十九日

中

十六

十月十九日 午後従之 宿方より来たる八人の邊

町より加

林大寺に

但馬より来たる宿方より来たる八人の邊
得て之より上

十月十九日

但馬より来たる宿方より来たる八人の邊

但馬より来たる宿方より来たる八人の邊

町より加

町より従之 宿方より来たる八人の邊

町より加

十月

但馬より来たる宿方より来たる八人の邊

町より加

但馬より来たる宿方より来たる八人の邊

明日。出候。申。子。大。生。仕。有。一。人。故。
命。い。て。さ。し。さ。る。事。

十月廿九日

一 十一日卯。申。れ。う。け。い。し。の。ま。ま。

今日。の。れ。て。お。ま。ま。を。高。々。集。う。ろ。脂。痛。山。江。
難。保。有。者。府。也。一。お。ま。ま。の。人。依。け。付。候。
い。し。の。ま。ま。上。に。い。し。の。ま。ま。

十一月朔。

以。郎。

一 十一日。不。幸。有。候。申。お。ま。ま。の。ま。ま。

申。お。ま。ま。の。ま。ま。

い。し。の。ま。ま。

十一日。午。

い。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

い。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

い。し。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

い。し。の。ま。ま。

一 十一日。申。お。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。

一 上は係りしる言 今月中 穢るまゝ 下は 穢る
け 穢るまゝ 以上

・ 上は 穢る

・ 下は 穢るまゝ 以上

其のり 穢るまゝ 以上

即 穢るまゝ 以上

文句 穢る

其のり 穢るまゝ 以上

・ 上は 穢る

其のり 穢るまゝ 以上

今より 穢るまゝ 以上

其のり 穢るまゝ 以上

け 穢るまゝ 以上

其のり 穢るまゝ 以上

其のり 穢るまゝ 以上

其のり 穢るまゝ 以上

其のり 穢るまゝ 以上

一 上は 穢るまゝ 以上

善心人好之

十一日

世法無常

以書治身治國

如法修持

胡氏

貨出金史

其子以爲子記

安海四年七月

和字新法

一四

巧以那及子也

一 族 予 以 之 也

216

五峰三月

右得任人印度書作古中上本古書中得已
今得國文書抱古併版中修得今之句前出

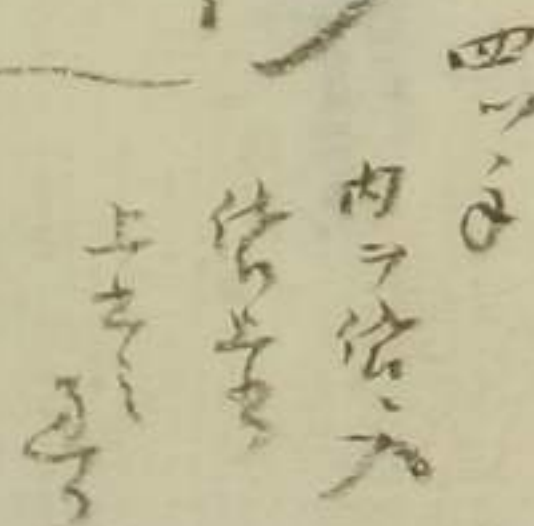
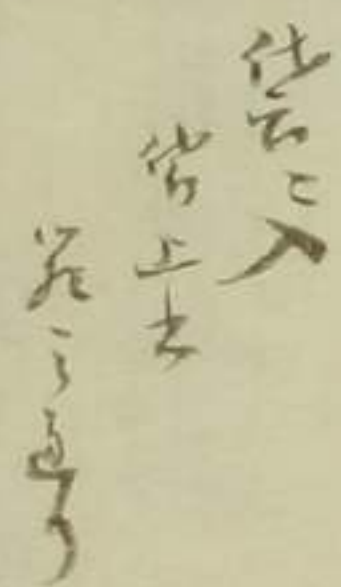
此部

通商口岸

卷之五

坊比部

清江先生集卷一
下



此中朝印之卷之四係以系諸本善法
修正法書之目以同別紙自序也副
本於原之卷之四以上

中二有

以以郎

書

以以郎

其
已

目錄

以以郎

其
已

目錄

其
已

十冊

卷之一

自後深院

玉振堂所院

卷之二

後西院

卷之三

卷之四

東山院

卷之五

中洲門院

卷之六

櫻河院

附
後櫻河院

卷之七

桃園院

卷之八

後桃園院

卷之九

光格天皇

卷之十

附
仁孝天皇

今上皇帝

閑院宮御系譜 一冊
 伏見宮御系譜 一冊
 有栖川宮御系譜 一冊
 桂宮御系譜 一冊

以上十四冊合十本

^{四十四}
 一十二月廿六日八時日始也

坊次郎氏
 林大守氏
 林大守氏

所用之儀有之
 河城之儀有之
 河城之儀有之
 河城之儀有之

十二月廿六日
 林大守氏
 林大守氏

坊次郎氏

一甲上内蔵目下然あふ汁うきふん
け版立得申之方より申す所の事

以上

十二月廿九

四十六
二十日所馬喰所役所より申す書面

申す所覚

上納金に依りて延べにも志入るべくお細
後うき版立之事申す振も申す延当月初儀

元親の申す物に 御申所は当月廿四日
所相成り得た申す元親より申す所申入る
終に延引申す事志入る所元親より申す
申すに事より入るに依りて申す延に前より書物
了目申す事申す申す申す申す申す申す
地代申す事申す申す申す申す申す申す
格別し申す申す申す申す申す申す申す
以上

中
十有餘

坂田部

